

令和3年度
「10年後の混浴プロジェクト」
概要説明資料【公表用】

環境省東北地方環境事務所
十和田八幡平国立公園管理事務所

プロジェクトの概要

- 本プロジェクトは、十和田八幡平国立公園の特徴ともいえる温泉場のうち、事業者の手によって古くから守られてきた湯治文化・混浴文化について、今ある課題を明らかにし、今後の継承に向けたあり方を検討するものである。

◇十和田八幡平国立公園の特徴「温泉」

- 日本有数の火山地帯である十和田八幡平国立公園には、20箇所以上の温泉場が点在。
- 江戸期以降、湯治場として徐々に整備が進み、遠方からも訪れる湯治客とともに独自の湯治文化を形成。
- 硫黄泉を中心に炭酸泉、単純泉まで泉質は多様で、「足元湧出」、「地熱岩盤浴」、「泥風呂」など多様な利用形態がある。
- 火山の恵みである温泉と湯治文化を経て形成されてきた本公園の温泉文化は、世界的にみても独自のものであり、国立公園としても重要な資源。

【温泉の原型】



人の手を加えて、自然の恵みを享受できる場所として整備

各温泉事業者によって、源泉や施設の保全のために不断の努力によって保全・継承

【温泉として利用】



資料：酸ヶ湯温泉

◇混浴が抱える課題

〔裸体をさらすことへの抵抗〕

日本では温浴施設において男女とも裸体で入浴することが一般的だが、混浴においてはより一層羞恥心が増してしまう。



〔異性の性的な視線〕

いわゆる「ワニ族」により、性的な視点で見られるといった被害は混浴風呂において報告されている。

〔異性の裸体に対する嫌悪〕

「見られる」だけでなく、異性の裸体が「見える」ことに対する嫌悪感を抱く利用者も多く、女性用湯浴み着では解消されない課題。

〔女性用風呂の混雜〕

混浴風呂を回避する女性が増え、利用者は混浴風呂の空間を楽しめない。結果として、女性用風呂が混雜。

◇混浴の文化的価値

〔自然度の高い温泉〕



藤七温泉 彩雲荘

混浴風呂がある温泉宿は、源泉がすぐ近くまたは浴槽直下から湧いているなど、自然度が高く、温泉としての価値が高い。

〔歴史ある温泉建築〕



酸ヶ湯温泉旅館（酸ヶ湯温泉提供）

内風呂に混浴がある温泉宿は、建築として古くから保全されてきたものが多く、建築物としての価値も高い。

〔ジエンドーフリーな空間〕



乳頭温泉郷 鶴の湯（秋田県提供）

男女とも同じ空間を共有でき、コミュニケーションが生まれる空間である。トランジエンダー等にも対応することができる。

◇混浴が残ってきた理由

- 自噴している温泉をそのまま利用
(=立地条件による制約)
- 有毒な硫化水素の滞留により仕切不可
(=技術的条件による制約)
- 湯治における交流の象徴
(=地域にとっての「当たり前」)
- 観光資源としてのシンボリックな浴槽
(=利用者からの愛着)

◇湯治の文化的価値

〔コミュニケーションの場〕



長期にわたり自炊をして共同生活を行う中で利用者同士のコミュニケーションが生まれる空間として機能する。観光利用の一見さんが多くを占める温泉宿で、長期滞在の促進への寄与が期待できる。

プロジェクトの目的・取組

- 湯治文化・混浴文化の継承を目指し、本プロジェクトでは国立公園内の混浴施設における以下の取組を実施する。

①湯治・混浴の現状把握

(混浴の利用状況調査)

②湯治・混浴の価値の見直し

(意見交換会の実施)

③湯治・混浴の価値を伝える

④混浴の利用しやすさの向上

(湯あみ着着用義務化の実証実験の実施) ※下線の調査等は酸ヶ湯温泉にて実施

→令和3年度に実施

プロジェクトの概要【令和3年度における取組】

- ・湯治・混浴文化の価値の見直しと混浴の利用しやすさの向上に向けて以下の取組を実施した。

現状の把握（混浴の利用状況調査）

人数計測調査

混浴・男女別浴風呂の4か所に、人数カウンターを設置し、通過人数を計測

◇調査の概要

期間：11月11日(木)～3月14日(月)
※4か月間
設置場所：千人風呂男女入口、
玉の湯男女入口※計4か所

◇実施結果

千人風呂平均利用者数
通常日：約640人
(男性：約410人、女性：約230人)
湯あみ着の日：約690人
(男性：約420人、女性：約270人)



センサーによるカウンター
(2本の柱の間を通過するとカウント)

※人数計測調査の実施結果について、湯あみ着の日は調査期間のうち該当日、通常日は湯あみ着の日を除く日における、24時間のデータを計上（うち計測開始日の11/11は13時以降のデータ）。ただし、千人風呂（女性）は11/19, 11/20, 11/22～11/27を除く（うち11/21は19時までのデータ）。

利用者アンケート調査

入浴後の利用者を対象に、混浴の満足度や抵抗感などを調査

◇据置調査の概要

期間：11月11日(木)～3月14日(月)
※4か月間
設置場所：サロン、客室

◇対面調査の概要

日程：湯あみ着の日（計8日間）他、
11月20日(土)、11月26日(金)
※対照例確保
場所：千人風呂前

◇実施結果

全体回収票数：1,230票
通常日：657票
湯あみ着の日：573票



利用しやすさの向上（実証実験）

湯あみ着の日の実施

混浴利用者に対する湯あみ着の着用義務化の実証実験を実施

◇第1回開催の概要

※全5日間
日程：11月19日(金)、21日(日)、
23日(火・祝)、25日(木)、27日(土)

◇第2回開催の概要

※全3日間
日程：1月26日(水)、

2月6日(日)、26日(土)

（実施時間：10時～15時）

◇実施結果（湯あみ着貸出枚数）

第1回開催：645着
(平均129着/日)

第2回開催：418着
(平均140着/日)



価値の見直し（国立公園内の混浴を有する温泉事業者との意見交換）

第1回意見交換会

目的：湯治の歴史および混浴の現状の把握と混浴を有する宿の課題等の共有

◇開催概要

- ・日程：令和3年11月25日(木) 14:00～16:00
- ・参加者：37名（有識者等：2名、温泉施設：8軒11名、DMO等：5名、その他：19名）
- ・内容：プロジェクト概要説明、有識者による講演、意見交換会

第2回意見交換会

目的：混浴の利用者意識の把握と湯治・混浴の継承に向けた取組事例の確認

◇開催概要

- ・日程：令和4年1月26日(水) 14:00～16:00
- ・参加者：33名（有識者等：3名、温泉施設：7軒8名、DMO等：5名、その他：17名）
- ・内容：第1回意見交換会・湯あみ着の日の振り返り結果報告、先導的事例・地獄温泉青風荘の紹介、意見交換会

第3回意見交換会

目的：着衣入浴の衛生面での影響の理解と混浴の継承の意義の確認

◇開催概要

- ・日程：令和4年2月25日(金) 14:00～16:00
- ・参加者：27名（有識者等：2名、温泉施設：7軒8名、DMO等：6名、その他：11名）
- ・内容：着衣入浴等の衛生面に関する影響について、第1回・第2回会議の振り返り、意見交換会

第1回意見交換会の概要

- ・第1回意見交換会では、有識者講演により、湯治・混浴文化の歴史や課題に対する理解の深化を図った。
- ・国立公園内の温泉事業者との意見交換では、湯治・混浴の意義の再認識の必要性や湯あみ着の効果・課題に対する意見が聞かれた。

■開催概要

目的	湯治・混浴に精通する有識者を通じた文化の歴史 や課題に対する理解の深化
内容：	1) プロジェクト概要説明 2) 有識者による講演 内田氏：湯治文化の歴史、今後の湯治文化の課題 北出氏：日本の混浴文化の現状・課題 3) 意見交換会 (宿の困りごと・プロジェクトへの意見)
	【参加者】 全37名 有識者等：2名 温泉施設：8軒11名 DMO等：5名 その他：19名

有識者プロフィール

- ◇内田彩氏
東洋大学国際観光学部国際観光学科准教授。観光歴史学、温泉論を専門とし、温泉地や滞在型観光に造詣が深い。
- ◇北出恭子氏
温泉専門家。多数の温泉資格や知見を活かし、メディア出演や講演を中心に温泉の魅力を世界に発信。

■有識者講演

【内田彩氏：湯治文化の歴史、今後の湯治文化の課題】

- ・江戸時代に参詣・湯治等の名目のみで旅が許可され温泉地が発展
- ・湯治は、客同士、さらには宿関係者や地域との「交流」を生んだ
- ・昭和以降の全国的な観光温泉地化に対し、東北では湯治文化が継承
- ・近年は、温泉がもつ時代的な価値が多様化し湯治文化自体が消失傾向

【北出恭子氏：日本の混浴文化の現状・課題】

- ・混浴施設は28年間で半分以下に激減
- ・背景には時代の変化やマナー低下による心理的安心や快適性の低下による利用者等の減少
- ・湯あみ着用の義務化は多様化する入浴ニーズへの対応が期待できる

■温泉事業者との意見交換

【テーマ】宿の困りごと・課題・プロジェクトへの意見



▶ 湯治についての意見

- ・湯治の意義を認識し、混浴を通じたコミュニケーションの大切さを認識することが肝要

▶ 混浴についての意見

- ・湯あみ着の日の定期的な開催が新たな客層へのPRになるのでは
- ・湯あみ着の衛生面での問題が気になる
- ・湯あみ着の着用は、温水プールと同じになってしまいそう
- ・湯あみ着に抵抗感がある温泉通の人への対応が必要

第2回意見交換会の概要

- ・第2回意見交換会では、湯治・混浴文化の継承に向けた取組を進める先進的事例から、取組内容や姿勢等を把握した。
 - ・温泉事業者との意見交換では、事例紹介者との質疑応答形式で、湯治や湯あみ着、経営等に対する意見が聞かれた。

■ 開催概要

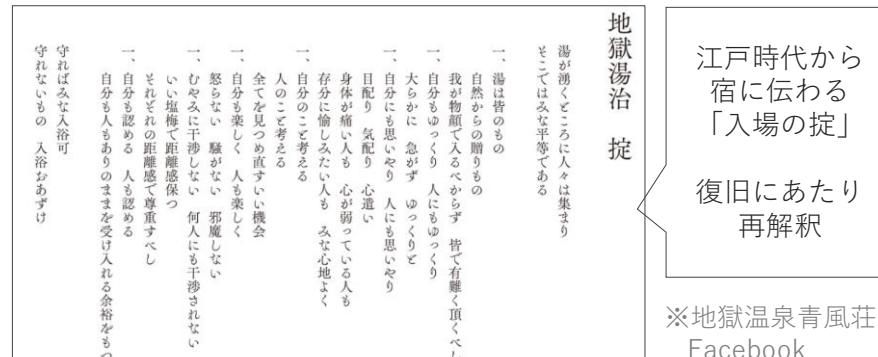
目的	混浴の利用者意識の把握と湯治・混浴の継承に向けた取組事例の確認
内容：	1) 第1回意見交換会・湯あみ着の日の振り返り結果 2) 先導的事例・地獄温泉青風荘の紹介 (地獄温泉青風荘.河津謙二) 3) 意見交換会 (湯治・混浴を残していくためにできること)
	<p>【参加者】全37名</p> <p>有識者等：2名</p> <p>温泉施設：8軒11名</p> <p>DMO等：5名</p> <p>その他：19名</p>

事業者プロフィール

◇地獄温泉青風荘.河津謙二氏

青風荘副社長。宿の経営全般を担当し震災後の復旧に尽力

熊本県南阿蘇村に位置し、湯治場として栄える地獄温泉青風荘は、熊本地震の被災後、シンボルである「すずめの湯」における着衣の義務化など、形態を変えて営業を再開



■先導的事例の紹介

地獄温泉青風荘では復旧にあたり、以下の2点を重視した取組を実施

- ①宿のコンセプトの再確認・明確化 ②コンセプトに合わせて宿の要素を一貫

湯治文化を大切にし「すずめの湯」を皆さん気兼ねなく楽しんでもらう

◆一般客と湯治客の交わりを意識した整備

- ・混浴「すずめの湯」への湯あみ着の導入
 - ・湯治棟へ一般客の利用が可能な空間を整備

◆若年層に着目した湯治文化の魅力発信

- ・親しみやすさに配慮した現代風のデザイン

◆次なる投資に向けた利益確保

- ・部屋数を減らし・単価・サービスの向上



※地獄温泉
青風荘提供

■温泉事業者との意見交換

【テーマ】湯治・混浴を残していくためにできること



湯治についての意見

- ・湯治ってなんだろう・・地域の皆のコミュニケーションの場なのでは
 - ・コミュニティ型の湯治、観光型の湯治を分けていく必要がある
 - ・コミュニティ型、観光型と分けずに、あえて交わりを生む点を意識した
【河津副社長】

湯あみ着についての意見

- ・脱衣所が濡れるなどの運用面での問題が気になる
 - ・日本らしさ、風情が失われることが気になる

経営についての意見

- ・ハード面ではなく、既存の資源や設備等を資金をかけずに活かしながら単価を上げたいが、利用者の理解を得られるか不安・・
 - ・費用や労力がかかることを説明し、利用者に理解してもらうことが重要（見える化、共有化）【河津副社長】

第3回意見交換会の概要

- ・第3回意見交換会では、着衣入浴等における衛生面での影響について把握した。
- ・温泉事業者との意見交換では、混浴が抱える現状や世間の認識を踏まえて、混浴継承の意義について各宿で多様な意見が聞かれた。

■開催概要

目的	着衣入浴の衛生面での影響の理解と混浴の継承の意義の再考
内容：	1) 着衣入浴等の衛生面に関する影響 (厚生労働省・国立感染症研究所ヒアリング結果) 2) 第1回・第2回会議の振り返り 3) 意見交換会(混浴文化を残していくことについて)
	【参加者】 全37名 有識者等：2名 温泉施設：8軒11名 DMO等：5名 その他：19名

ヒアリング先プロフィール

◇厚生労働省医療・生活衛生局生活衛生課 大嶺氏・田中氏
公衆浴場法・旅館業法に基づく公衆浴場等における衛生面での運用等に精通。

◇国立感染症研究所細菌第一部 前川純子氏
国立感染症研究所細菌第一部主任研究官。細菌学を専門とし、レジオネラ属菌等による施設の汚染に精通。

■タオルや着衣入浴による衛生面での影響

◇厚生労働省ヒアリング結果

- ・各都道府県の水質基準等をクリアすれば問題ない
- ・持ち込みを禁止するなど、清潔と言えるルール作りが必要
- ・厚労省ではがん患者の生活の質の向上等のため入浴着の理解促進

◇国立感染症研究所ヒアリング結果

- ・タオルや着衣入浴に関して、清潔なものであれば問題はない
- ・レジオネラ菌の増殖を防ぐことが重要。菌が増殖しにくい環境は、源泉や酸性泉(PH2.0以下)、高頻度の換水や適切な衛生管理等

■温泉事業者との意見交換

◇混浴の現状

- ・女性は混浴時間は別浴風呂を利用し、女性専用時間帯に混浴風呂を利用 → 女性が混浴を避けている傾向がみられる。(アンケート結果より)
- ・混浴の体験は若年層・女性等が少ない傾向。(アンケート結果より)
- ・混浴への抵抗は、男性は年齢層が上がるとともに抵抗感が薄れる一方、女性は全世代において6.5割以上が抵抗を感じている。(アンケート結果より)
- ・世間における混浴への否定的印象、湯治文化への理解不足が明らかになった。

▼インターネットのコメントニュース欄



aaa***

混浴を文化として残す必要ってあるのかなあとは思う。
今まで一度も混浴したことはないけれど、やはり男性の目が気になるし、恐いしで落ち着いていられない
混浴って、どういう需要なのか分からぬ。
需要がないものは廃れてしまうのが風習じゃないかなって思う。
色々事件もあるし、「ワニ族」なんてやばい人までいるなら、無理に残すことも無いような…

9323 1023

※Yahoo!ニュース

◇意見交換

問①：なぜ自分の宿で混浴が残ったのか

- ・これまでに考えたことはなく、自然に当たり前に残ってきた
- ・観光資源として求められていたから
- ・自噴泉であり、湯量も限られていたため結果的に混浴として残った



問②：今、混浴を残していることにどんな意義があるのか

- ・地域の大切な自然資源としての継承が必要
- ・ジェンダーの観点や介護が必要な方への対応等、人との交わりの観点で重要
- ・外国人への対応も含め普段味わえない「体験」ができる場所として必要
- ・世の中の流れに沿って文化が廃れるのも仕方が無いが個人的には残したい
- ・今後は混浴を残す意義自体を考えていく必要があるのではないか



今後の
方向性

各温泉事業者が施設のコンセプトや価値を見つめなおし、それを利用者に伝えていくことが重要

混浴の利用状況調査・実証実験実施結果

・混浴の利用状況調査（カウンター調査実施結果、アンケート調査実施結果）と実証実験結果を以下に示す。

■ 人数計測調査結果

【通常時】

- ・男性はいずれの時間帯も別浴風呂より混浴風呂を利用
- ・女性は混浴時間は別浴風呂を利用し、女性専用時間に混浴風呂を利用
→男性に比べて、女性は混浴を避けていることが想定される。

【実証実験時（湯あみ着用義務日）】

- ・通常日と比べて、男女共に混浴利用者数が増加した。
- ・特に女性は、混浴時間に混浴風呂が別浴風呂の利用者数を上回る傾向
→女性を中心に利用しやすい環境への効果が期待される。

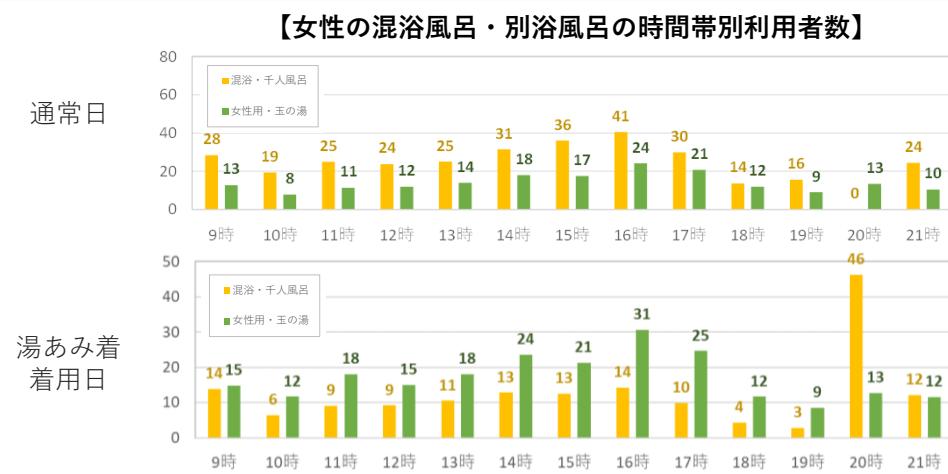
■ アンケート調査結果

【湯治・混浴の現状】

- ・若い世代ほど、湯治の認知度が低い一方、世代に限らず「自然とのふれあい」や「人とのふれあい」等の湯治のイメージが失われつつある。
- ・混浴の未経験者の割合、抵抗を感じている人の割合は、若い世代や女性が多い。

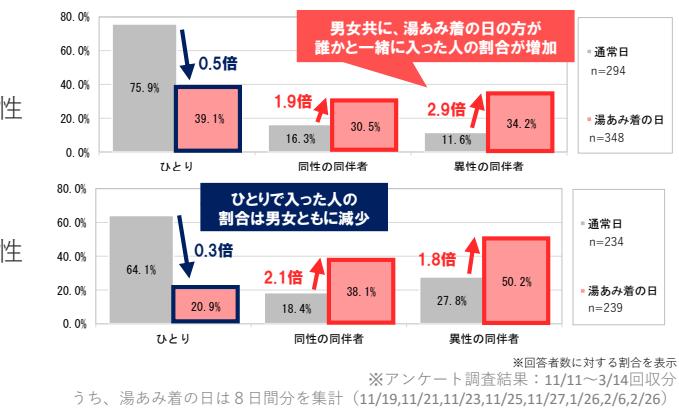
【湯あみ着用について】

- 男性
- ・湯あみ着用前、湯あみ着を着用することに抵抗を感じていた利用者も男性を中心に一定数みられたが、その多く（男女共に約5割）が、湯あみ着用後、また着てもよいと感じていた。
 - ・湯あみ着用後、混浴への抵抗感がなくなったと感じる人は男性は7割、女性は8割が多い。
 - ・湯あみ着用により、混浴の満足度（「癒された・リフレッシュした」「人とのコミュニケーションが生まれた」）の割合は男女共に増加。
 - ・湯あみ着用により、混浴に一人で入った人の割合が減少し、誰かと一緒にに入った人の割合が増加。
- 女性



※【通常日】 人数カウント調査結果：11/11～3/14回収分のうち、湯あみ着の日の8日間（11/19,11/21,11/23,11/25,11/27,1/26,2/6,2/26）を除く日を計上 ただし、11/11は計測開始の13時以降を計上

【混浴に一緒にに入った人の変化】



【利用者意見】

なかなか決心がつかずにいたが、湯あみ着のおかげでとても気楽に入れた

昔からの湯治場としての利用目的と情緒は未長く残してほしい

湯治文化の復活も視野に入れないと温水プールになってしまふのでは

湯治という日本の伝統を現代の世に適応する形で守り続けたい



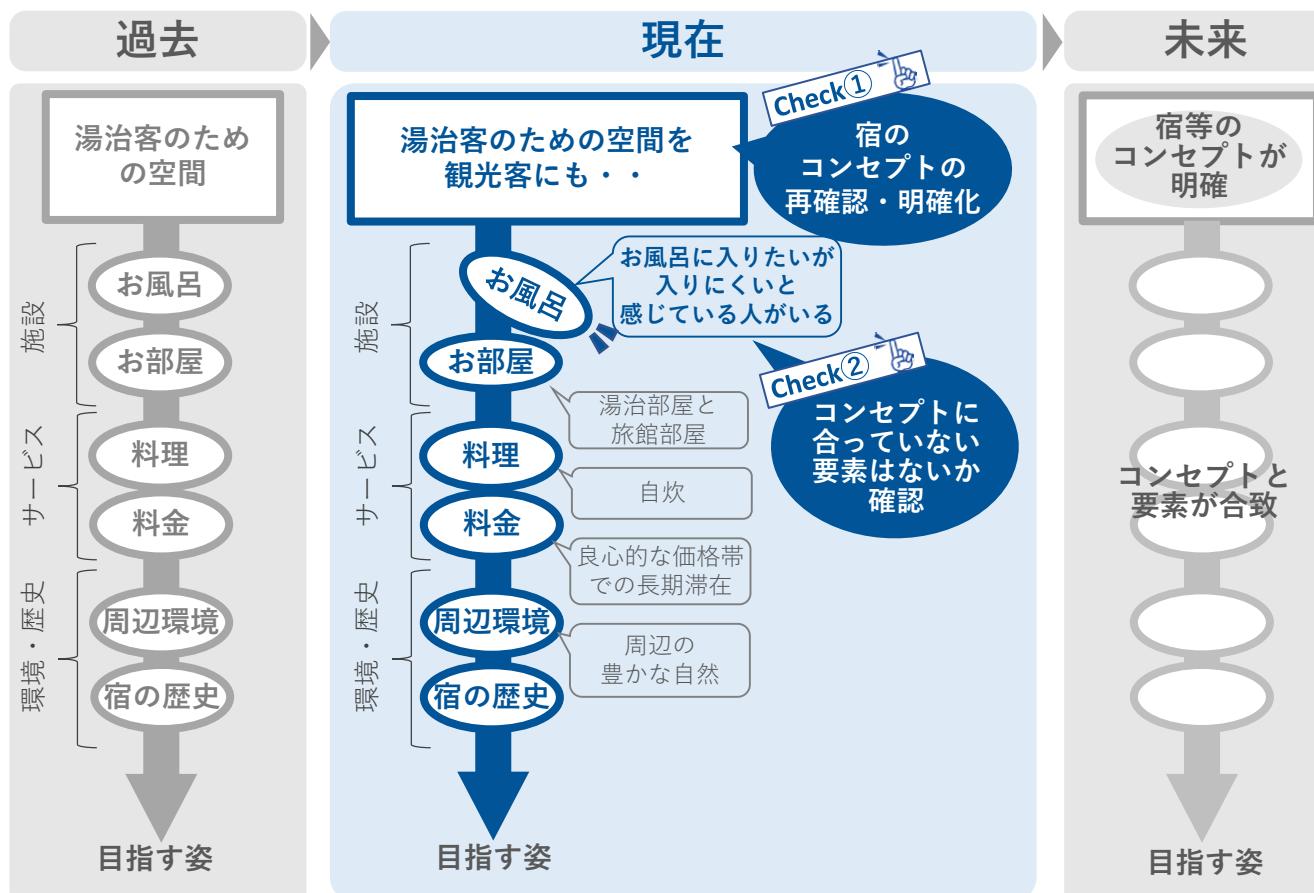
■ 実証実験結果

- ・湯あみ着用義務日は、夫婦等の男女グループの他、家族連れや女性グループなど、幅広い層の和やかな様子がみられた。
- ・利用者意見からも誰もが混浴に入りやすい環境に向けた効果が期待できる。
- ・一方で、常連客を中心に否定的な意見も聞かれたことから、利用者の理解醸成に向けた適切な説明や周知が必要。

湯治・混浴の継承に向けた今後の取組について

- 意見交換会を通じて、温泉事業者の中では、温泉施設の状況や経営体制、混浴に対する考え方、湯あみ着に対する意見が多様であることが明らかになった。
- 一方、世間では混浴への否定的なイメージが多く、湯治文化への理解不足であることが想定されることから、温泉事業者がそれぞれ宿の魅力を再認識し、それを利用者へ伝えていくことが重要である。
- まずは各温泉事業者それぞれが事情に応じた温泉施設のコンセプトや取組のあり方を検討することが重要であることから、意見交換会の継続等により、さらに議論を深めていく。

【宿のコンセプトと各要素のあり方】



【魅力の発信に向けた方法の例】



※地獄温泉青風荘.提供